

2021年 6月30日発行

バックナンバーは <http://karadakan.jp> でお読みいただけます。〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町14-1  
鶴岡タウンキャンパス 致道ライブラリー内  
TEL 0235-29-0806  
FAX 0235-29-0807院長リレー  
インタビュー  
第四回

ともに考えよう

## 地域医療みらい図

自分のために 未来のために

からだ館通信60号から始めた「と

もに考えよう地域医療みらい図 院長リレーインタビュー」では、私たちが暮らす庄内地域の医療の現状について学んでいます。それぞれの院長の視点から見た地域医療の現状や目指す姿についてお話をうかがってきました。4回目の今回は、医療法人なごみ会 産婦人科 小児科三井病院の三井卓弥院長に伺いました。

※第一回 日本海総合病院 島貫隆夫院長  
第二回 鶴岡協立病院 堀内隆三院長  
第三回 鶴岡市立荘内病院 鈴木聡院長  
(過去のインタビュー記事はからだ館HPよりご覧いただけます)



医療法人なごみ会 産婦人科 小児科  
三井病院  
院長 三井卓弥さん

(三井) 三井病院は昭和24年に私の祖父が開設し今年で72年になります。以来、地域の産婦人科病院として妊婦さんが安心してお産できるよう、取り組んできました。

「病院が大切にしてきたことを教えてください。」

「医療はサービス業である」

(三井) これは二代目院長である父の言葉で、三井病院として一番大切にしてきたことです。三代目の私がこの病院にきた20年前は、鶴岡市内にお産の開業医が5つもありました。そのため、より患者さんに選んでいただけるよう、医療環境の充実を目指してきました。お食事にもこだわり、旬の食材を心を込めて手作りにしています。行食や季節に合わせたメニューも取り入れ、退院後の参考になるよう提供しています。



またヨガ教室、マタニティクラス等を開催、妊婦さんが安心かつ快適に妊娠・出産できるようお手伝いしてきました。

「地域医療で課題と感ずるところは何ですか。」

(三井) 大きくは2点あります。ひとつは少子化問題です。昨年度、日本の出生数が100万人をきり87万人で過去最少を更新しました。地域でも同様に大きな課題です。又、若者の意識も変化しています。

恋人ができ結婚し出産という流れを望まない人が増えていきます。子供を必要としない考え方、社会的な性別役割に関する議論等、色々ありますが、このままでは少子化に歯止めがかかりません。どうしたらいいのか、難しい問題です。

「深刻な医師不足」

(三井) もうひとつは、医師不足で、特に、小児科と産婦人科では深刻な状況です。

鶴岡市でお産のできる病院は、荘内病院、鶴岡協立病院、三井病院の3病院しかありません。そのうち、三井病院と鶴岡協立病院は産婦人科医が1人です。荘内病院の産婦人科医は4人ですが、産科だけではなく婦人科も対応しています。夜に複数のお産をしてそのまま昼に婦人科の手術、という時もあり体力的にもかなり厳しいと伺っております。そのため誰か一人でも医師が欠けると大変な状況になる危機感を絶えず抱いています。また私はがん検診も担当しているので、がんや良性の病気の治療を考えたとき、十分な医療資源があるかと疑問に思います。

今は医師の頑張りが頼り

(三井) そこで、常になんとか産科医を増やしたいと考えています。増えるのは三井病院でなくても他の病院でもいいのです。しかし難しい現状です。長時間連続勤務や医師一人にかかる負担が大きく生活の質を保つことが困難だからです。現在はそれぞれ医療機関の医師の頑張りで成り立っている状況です。私も目の前のことに精いっぱい未来を考えるとできないほどです。

「地域の周産期医療を維持するため  
おこなっていることはありますか。」

(三井) 昨年、荘内病院、鶴岡協立病院、三井病院が「南庄内の周産期・小児医療を考える会」を立ち上げました。そこでは産科医不足の現状から、連携の在り方を模索しており、3病院の機能の集約化が議題に上っています。集約とは、それぞれの病院が機能の分散を考え、病院の強みを生かし一つになることです。確かにこのままですと、周産期医療の崩壊につながるため、協力が必要です。しかし、妊婦さんのニーズに合わせた開業医ならではの細やかな「サービス」も必要で、実際酒田市など遠方の妊婦さんも三井病院に通院・出産されています。集約して妊婦さんが満足できるお産ができればいいのですが。公立病院の中で、産婦人科だけサービスします、とはできないと思います。そのため、妊婦さんのニーズを考えると、単純に集約化は、難しいと考えています。今後も継続的な話し合いが必要です。

### 適切な支援につながる連携

(三井) 現在は、安心して医療を提供するために、お産のリスクが大きい場合、荘内病院や他の総合病院と早期の段階から、情報の共有をしています。通常のお産でも、突然異常が起きる場合もあり、情報共有は必須です。



2月25日、オンラインと対面のハイブリッド方式でインタビュー。聞き手はオンラインにて秋山美紀<sup>1)</sup>、三井病院にて、左手より齊藤彩<sup>1)</sup>、瀬尾利加子<sup>2)</sup>。1)慶應義塾大学からだ館 2) (株) 瀬尾医療連携事務所

(三井) また近年、不妊治療を受けられてきた方、高齢妊娠、出産の方も増えています。合併症を患ったりメンタルで不安を抱える方も多く、パニック症状など産後の鬱につながることも想定されます。このように支援が必要な妊婦が増え、私たちが解決できないことがたくさんあります。そのため、病院、かかりつけ医、保健師さんともコミュニケーションをとり、必要な人に適切に支援できるよう連携をとることが大事だと考えています。

### 「お休みが取りづらい状況と聞いております。」

(三井) 一緒に働いていた父が病気になる一人勤務となつてから、ほぼ出かけられない状況です。たまに、家族で近くに出かけて早々に呼び出されたりするため、子供が小さい頃は泣かれたこともありました。今は父親の不在を当たり前と感じてくれるようです。私としては家族に申し訳ない思いですが、同時に私の状況を理解してもらい、有難いとも思っています。今世の中は、コロナ自粛で外出が制限されていますが、私は、ずっと出かけられない状況に変わりないのです。それでも、出産という特別な場面に立ち会え、妊婦さんに感謝されることも多いため、今の多忙な生活を続けていられます。

(三井) 夜中にお産が終わって、妊婦さんが「先生はいっつ寝てるの?」と気遣ってくれることもあります。こんな言葉をいただけるだけで十分なんですよ。

### 「子育てしやすい地域に必要だと考えていることはありますか?」

(三井) この地域には、元気なシニアがたくさんいらつしやるので、子育て家庭との連携が取れると思います。鶴岡でも一時期シニア層が、子供を預かることをやっていた、私の子供もお世話になったことがあるのですが、大変助かりました。急な出来事や細かいニーズに対応してもらえると助かるご家庭は多いと思います。地域をあげて子育てをしていければいいですね。(了)

あとがき  
三井卓弥先生ありがとうございました。  
次回もどうぞお楽しみに

### 聞き手のプロフィール

齊藤 彩 からだ館スタッフ、社会福祉士。院長インタビューを通じて地域医療体制の情報を発信し、こころす皆で医療のことを考えていきたいと考えている。

瀬尾 利加子 (株) 瀬尾医療連携事務所代表、鶴岡市地域医療を考える委員会委員長。2015年まで鶴岡市内の病院に勤務後、高齢社会から起こる医療課題の解決策に取り組むため起業。みどりまち文庫を運営。

秋山 美紀 からだ館リーダー、慶應義塾大学教授 鶴岡市地域医療を考える市民委員会コーディネーター 中央社会保険医療協議会公益委員等。約15年にわたり庄内地域の医療をウォッチする傍ら、国の医療政策にも関わる。

院長リレーインタビュー記事はからだ館ホームページよりご覧いただけます。



参加者  
募集!

# 「がんカフェ(仮称)オープン!

念願だった、若い患者さん向けのカフェを開催します。  
家でも職場でもない場で、同じ世代の経験者同士で思いを共有しませんか?

会場: まちづくりスタジオ鶴岡Dada

〒997-0034 鶴岡市本町1丁目7-45

リモート参加 (zoom) もできます。

対象: がん経験者 (10代~40代まで)

会費: 100円

申し込み: 事前予約となります。

からだ館までご連絡ください。

電話 (0235-29-0806) もしくはQRコード

開催予定:

2021年 7/15 8/19 9/16 10/21 11/18 12/16

2022年 1/20 2/17 3/17

毎月1回  
第3木曜日

19:00~20:30  
開催



申し込み  
QRコード



## つむぐ会 (認知行動療法カフェ) 開催しました



自分の考え方や振る舞いを変えてストレスや問題を解決する「認知行動療法」の勉強会が、今年1月にスタートしました。

にこにこ倶楽部参加者有志の方々の発案で、心理学が専門の社会人大学院生、館野弘樹さんがアドバイザーとなり、グループで学んでいます。

たて糸とよこ糸、いろいろな思いを紡ぐという意味で「つむぐ会」と名付けられました。



講義と、事例に沿ったワークを体験しながら、自分の心と向き合っていきます。

### (参加者の感想)

- ・物事を押し量ることができていない自分に気がつき、もどかしい思いがした。
- ・これからも参加者のみなさんと一緒に学んでいきたい。
- ・出来事は変えられないが感情は変えられる。しかし簡単に感情は変えられない。今日学んだ方法を試してみたい。
- ・みんなの考えを聞くことができ楽しい。いろいろな考えがあり、いろいろな受けとめ方がある。

# 開催報告

## ピアサポーター養成講座

### 第4回

2020年11月14日（土）

#### 講義

「緩和ケアを知っていますか？」

日本海総合病院緩和ケア認定看護師 小野早代氏  
グループワーク



「講義を聞いて緩和ケアの印象が変わった」  
「対象が、がんだけではなく分かった」と感想が寄せられました。

グループワークでは、事例を基に、その人の困りごとやピアサポーターとして出来ることについて話し合いました。講師の看護師さんにさまざまな質問も出されました。



### 第5回

2021年3月6日（土）

#### 第二期の振り返り

前半は、ピアサポート活動を地域で実践している方のお話をお聞きしました。

後半は、皆さんに、受講してきた中で感じたこと、自分の中の変化、当事者としての思いなどを自由にお話いただき、参加者全員で共有しました。



### 絵手紙教室

毎月一回、がんピアサポートの一環として、がんの経験者が講師になり絵手紙教室を開催しています。病気を忘れ、無心になる時間と、作品を完成させる達成感、二つの喜びが感じられるひと時です。

### ここにご倶楽部



#### がんを経験された方・そのご家族が、 経験・想いを分かち合うサロン

日々の暮らしの楽しみ、ご家族との関わり、セカンドオピニオンなど治療に関わる情報交換など、毎回様々なお話が飛び交います。皆さんとお話を共有しながら、和やかに時が流れています。

今後の開催日 7/2 8/6 9/3  
毎月1回第一金曜日開催予定  
時間：10:00～11:00  
会場：鶴岡タウンキャンパス3階  
会費：お一人 100円



#### ～\*～\* お願い \*～\*～

- ◆ 各自飲みものをご持参下さい
- ◆ マスクを着用ください。
- ◆ おつりのないようご準備ください。

★開催変更の場合もあります。  
ご不明な点やお問い合わせは「からだ館」まで  
電話0235-29-0806

## 新スタッフの 紹介！

頼もしい二人がスタッフとして仲間入りしました。どうぞよろしくお願いたします。

### 小林まゆみさん



好きなことは、料理、お花を見ながらの山登り、読書です。“おせっかいな保健師”として皆さんと一緒にからだ館を盛り上げていきたいです。

### 佐藤理恵さん



自分の経験が役に立つ仕事ができることに感謝しながら、一人で悩んでいる誰かのため寄り添えるようなことをしていきたいと思っています。

### 編集後記



爽やかな季節になりました。通勤中、木々の緑や、苗がそよぐ整然とした田んぼ、鳥海山や月山の姿を楽しんでいます。時代が変わっても、この風景はいつまでも変わってほしくないなあ、と感じます。変化と言えば（無理やりですが：笑）念願の、「若い患者さん対象のがんサロン」が始まりました。歩き出したばかりの会ですが、参加する方と一緒に、大切に育てていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。（M.M）